

埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校

Saitama Prefectural Tsurugashima-Seifu High School

令和5年度
第2回 協働教育ネットワーク会議

Report

令和6年2月2日(金) 開催

令和6年2月2日(金)に令和5年度第2回協働教育ネットワーク会議(学校評議員会・学校評価懇話会)を開催しました。当日は学校評議員、PTA・後援会代表者、生徒会生徒の学校関係者の皆さんと教職員で意見交換を行いました。

15時30分から始まった会議では、今年度の「学校自己評価システムシート*1」の年度末評価について、それぞれ学校からの説明を受けて、各委員から御意見と次年度に向けた提言をいただきました。

以下に第2回協働教育ネットワーク会議で委員の皆さんからいただいた御意見・御感想の一部を御紹介します。



令和5年度 第2回 協働教育ネットワーク会議

学校評議員:鶴ヶ島市内小中学校は1人1台の学習用端末を導入して3年が経ち、毎日の授業や家庭学習では欠かせない文房具となっている。鶴ヶ島市は県内小中学校の中でも先進的に取り組んでおり、学びを繋げるためにも小中学校と高等学校の連携が必要ではないか。

保護者代表:鶴ヶ島清風高校は他校よりもICT機器を活用していると思う。学級閉鎖の際にも授業をオンラインで対応しているため、親としては有難いと思っている。

生徒:教員間で授業におけるICT機器の使用頻度が二極化している。学校全体で使用頻度を更に高められると良い。

学校評議員:学校のDX化は時代の流れで推進すべきではあるが、基本は人と人とのコミュニケーションであることや運用上の課題の析出と改善の検討には留意しなければならない。

「事前アンケート」から

学校評議員:中学校で自信を無くした生徒が勉強面で丁寧に見ていただけると期待をしています。今後とも個別最適な学びを実現されたい。

学校評議員:ICTを導入して直ぐは、一時的に業務は増える。働き方の効率化の両立は、今は難しいかもしれない。

保護者代表:生徒一人一人に寄り添い、その生徒にあったアドバイスや声掛けで信頼関係が深められるように三者面談の内容を工夫・検討していただきたい。

*1 学校自己評価システムシート

「学校自己評価システムシート」は、年度当初に本校が策定した目標の達成状況や次年度に向けた課題と改善策等に記載したものです。「学校自己評価システム」とは、「目指す学校像」の実現に向けて学校が今年度どのような目標を掲げ、どのように取り組んでいくのかを明確にし、自ら評価を行うことで、学校の教育力の向上を図っていくものです。

「学校自己評価システムシート」に記載している目標体系等は次のとおりです。

- *目指す学校像:10年先を見据えた長期目標
- *重点目標:3~4年程度の中期目標
- *評価項目:重点目標達成に向けた今年度の目標
- *具体的方策:評価項目を達成するための方策
- *評価指標:方策の達成状況を把握するための指標

学校・家庭・地域の連携・協働の在り方について

学校評議員:これまでの無償のボランティア的役割として地域の方のお力をいただく仕組みは限界にきていると感じる。真にWIN-WINとなるためには、誰もが犠牲にならない(善意の搾取にならない)ような仕組み作りが必要である。

地域代表者:今年度は西市民センターにおいて生徒にボランティアをしてもらったが、今後も鶴ヶ島清風高校の生徒と様々なイベントを行っていききたい。また、部活動の作品を飾ったり、発表(演奏)を行ったりするなど、地域の型に鶴ヶ島清風高校の活動を知ってもらえるようにしたい。

保護者代表者:保護者が学校の活動に参加できる場が増えると良いと思う。

生徒:希望制のインターンシップに参加したが、もっと続けていきたい。1年次のインターンシップに参加した時は進路希望が明確ではなかったが、様々な職場(職業)を体験することで自分のやりたいことがはっきりした。

